
作者と科学部のとある一日

上川 勲

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

作者と科学部のとある一日

【Zマーク】

Z5730B

【作者名】

上川 勲

【あらすじ】

ある日の作者の、実際に起きた一日について書かれてあります。

(前書き)

この話は、実際の話です。120%純正の事実でフィクションは入っておりません。

え、どうも、作者のなかたくだ。今回は小説ということもあって警護ではなく普段の口調なんだけど勘弁して。

さて、突然なのが僕がいきなりこんな短編小説を書くことになつた。なぜだろうねえ？その理由は簡単だ。ある友から「う言われたからだ。

「ノンフィクション小説を書いて」

とな。

初めはノンフィクション小説を書くのは僕の中できつこう抵抗があつたりもしていたのだが、まあ今日はちょっといつの誕生日といつこどもあつてこうして書くことになつた。

よつて読者の皆様、ついて来るとよい。後悔するから。

僕が通つてゐる学校は、どこにでもある平凡な県立高校だ。別段、某人気ライトノベルのように宇宙人や未来人や超能力者はいない至つて平凡である。少なくともいたとしても僕は会つていないのでないということにする。仮定する。^{じゅみつぶ}虱潰しに拷問をかけて自白を強要するとなると出てくるかも知れないが。

登校時間は、1年は8時10分まで、2年は8時15分まで、3年は8時20までにしなければならないので、現在2年である僕は8時10分までに何とか登校しなければならない。

通学路は、坂あり平面路ありやたらと危なつかしい車の交通がけ

つゝあるのに信号のひとつすらついていないところあり……と、けつこつなテンジャラスロードを通学してきているわけだ。

家から学校までは大体20～25分ほどかかる。もちろん自転車通学だ。そうでなきや僕は途中で挫折しているに違いない。

そして「テンジャラスロードを“猛”がつくほどのハイスピードを出していつも5分前には校門をくぐりぬけている。途中、スキンヘッドな現代文＆古典担当教師や、マスマスチック（？）な数学教師が校門前に立っているので心なしの口頭だけの「おはようございます」を言い、とっとと学校の敷地内に入つて自転車置き場に自転車を止めて、頭がただただ痛くなるだけの教科書が押し込まれているでかいカバンを持つて自分のクラスまで行くのだ。ちなみにこのときの曜日は確かに火曜日……つまり2日前のことだ。……補習があつて7時20分に登校していいたような気もするが、まあいいだらう。そして8時40分、授業が始まる。うわーい。投げやりな歓声が僕の中で響いている。やる気がでないねえ。2年だからそんなことも言つてられないんだけどさ。

そして、ただただ僕を眠りへと誘う先生たちのお経のよつな説明を聞きながら12時30分になつた。4時間目終了だ。うわーい。この僕の中で響いている歓声には僕も賛同したい。

さて、僕は弁当を食べることにする。そのとき一緒に食べるやつたちは、

「よし、トイレいくだ

平面ぺつたん（匿名）である。……そう、実のところ僕も最近わかつたことなのだが、去年突如として現れた謎の自殺サイトお似合いな小説“無価値22”を投稿していたのがこいつだったのであるツ！まさかこんな身近にこのサイトに黒歴史を刻み込んでいたやつがいたとは……。平面ぺつたんの友として代わりにこいで詫びておきます。“ごめんなさい。

そして、こいつがたいてい僕に会って言つ葉が先ほどどの発言である。ひとりでトイレに行けないのか、こいつは。

だいぶ前こいつにそう言つてやつたのだが、こいつはなんて言つたと思う？「花子さんが出るかもしれないじゃないかッ！」である。だったらそいつに便器に吸い込まれるといい。

そのほかにはWさん（匿名）がいたりする。こつちは平面ぺつたんと比べればずいぶんと常識人である。生真面目すぎるのが玉に瑕なのだが。

その面子で僕は弁当を食べ、そして5時間目6時間目が始まった。うわーい。……説明しなくともわかつてくれ。

あいかわらず眠たい授業。子守り歌にしか聞こえないのは何でだろ？ か。昼のうららかな陽気がさらに僕の眠気を増大させ、生き地獄を存分にあじわい続けながら5・6時間目の授業も終了。

その後、教師からの明日の連絡を重要な部分だけ聞いて後は右耳から左耳へと教師の言葉がすり抜けさせて、清掃だ。ちなみに僕は教室掃除だ。

そして掃除を適当に終わらせて、僕は部活をするべく部室へと向かう。

僕の所属している部活は、すばり科学部だ。科学部と聞いて皆はなんと違うだろ？ 実験とかいつもしていそり。……そう思つている人たちが大半だろう。

ふふふ……あまい。甘すぎるぞ。他の学校の科学部はそつかもしれんが、少なくとも僕の所属している科学部はそんなのではないッ！ 科学部……科学部に所属している者たちの中では別名こいつ呼ばれている。 プレイ部と。

プレイ部……はっきりと单刀直入に言つてしまえば「遊び部」である。所属している僕が言つのもなんだが部活ではないッ！

生徒手帳に「部活動の内容が、何らかの教育的成果をあげられるものである」と書かれているのだが、はっきり言おう。NOだッ！

あえて言つなれば、遊ぶことで精神的に若さを保つことができる
……とにかくだらうな。

ガラガラ～と引き戸を開け、部屋の中に入るときにはすでに2人の部員がいた。

ひとりは科学部の部長（匿名）。2人目はチャップリンならぬトックリン（匿名）。そしてもうひとりは平面ペッたんである。

今のところ集合者はたった3名のようだ。僕を合わせれば4人だが……と、僕がそう思つていたとき、新たにもうひとり入ってきた。

「部長……あ、いた」

見つけるなりそう言つのはとつあん（匿名）である。なぜとつあんのかつて？なんとなくそんな感じだから。そしてこのとつあん、科学部じゃないのになぜか科学部にやつてくるのだ。なんでだらうねえ？顧問の教師も公認済みだし、何でもアリ感がこの部活はあるね。ちなみに顧問の教師暇じゃない。おやじく会議か何かだらう。

そして続いてガッキー（匿名）が入つて来ようとしていたとき、

「帰つてええで」

トックリンが無責任なことをガッキーに言つと、ガッキーは「やつたー」とか言しながら入つてくるのをやめとつと帰るつとする。

「おじおいッ！あいつはやうじつたら絶対帰るんやからそんなこと言つなつてッ！」

トックリンを一喝するなり、科学部の保護者の存在の部長は部室を出て、ガッキーの首根っこをつかんで引きずつて部室へと強制連

行してきた。がんばってるねえ、部長。
さて実のところ後2人、2年で科学部のやつはいる。ひとりは…
…アレ? なんでだらう? 顔は思い出せるのに名前が思い出せない…
…。まあいいや。ひとり田はアレ(匿名)で、もうひとりはひ
ょろり(匿名)である。

アレのほづはともかく、ひょろりはなぜこないんだらうねえ。部
活があるときは大抵やってきて、部室にセッティングされているパ
ソコン一式に、勝手にパソコンゲームをインストールしてそれで遊
んでいるのに…。おそらく図書室にあるインターネットに接続さ
れているパソコンでもいじつているんだろうねえ。もしくは塾とか
…。

ちなみになぜ“アレのほづはともかく”って言ったのかは、幽靈
部員だからである。だからめったなことでは来ないのだ。以上、説
明終わり。

そんな感じで今回集まつたメンバーは僕、平面ぺつたん、部長、
ガッキー、とつとあん、トックリンである。
さて、ここからは部活開始である。

部長と平面ぺつたんは部費で購入したソーラーで動くラジコンカ
ー(?)を組み立て始め、トックリンと僕は授業中に出された宿題
をし、とつとあんとガッキーは黒板に適当ならきがきをして遊んで
いる。ちなみに黒板には、僕が遊んで書いたマリオがザザエさんへ
アーをしている姿が未だにある。たしか2週間ほど前に書いたもの
だつた気がするが…まだ残つていてる。

そして僕も宿題するのに飽きて途中からとつとあんとガッキーの
もとまで行き、適当な会話をしながら、生き物なのがどうかも判別
がつかない謎の落書きを黒板にしながら時間が過ぎていき、顧問の
教師が来たところで部活は終了となつた。

さて、これほど平和で自由な部活が他にあるのなら是非、『』連絡
いただきたい。僕たちもたぶん負けないようにするから。

ああ、そうそう。部長に部活のノンフィクション小説を書いて
僕が宣言したら帰ってきた言葉がこれだ。目に焼き付けるとよー。

「やめてくれ。我が部の恥を晒すのは

苦労人だねえ、部長……。

つべづべくそつ思つたよ。僕のせこでもあるんだからうなづか。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5730b/>

作者と科学部のとある一日

2010年10月31日04時30分発行